松岩地区の国道45号と旧街道の合流点。あか〇の地点が津波の到達点で瓦礫が積み上がっていて通行不能。手つかずの瓦礫の中に、多くの行方不明者がいると思われる。

住宅も農地も流された北最知・南最知地区

国道45号沿いのENEOS。スタンドの屋根より高い波が来たのは明らか。
一番上の看板まで津波がきたのかもしれない。

気仙沼湾の西岸より東岸を見る。東岸は造船所がならぶ工業地帯だった。
起重機は残っているが、津波と火災に破壊され、再建は並大抵のことではない。

湾内火災で延焼した遠洋漁船。
燃えた残骸のような船は至る所で見られる。

国の有形文化財の指定をうけた男山本店。

昭和8年の三陸大津波と、昭和35年のチリ地震

津波にも耐えた木筋コンクリート造の3階建て商店

も残念ながら倒壊してしまった。

大火災が発生し、壊滅した鹿折（ししおり）地区を高台から望む。

震災前、ここには工場、住宅、商店がぎっしり建っていた。

知らない人にも挨拶する町の人、とまってくれた車に必ずお礼をする小学生、

そんな朗らかな生活があった。

鹿折地区の北半分をズームアップ。どこが道路かもわからない状態でトラックでは進入不能。

鹿折地区の南半分。船や住宅が、まるで砂場にばらまいたおもちゃのように転がっている。

公民館への支援物資配送。やさい・果物は、たいへん喜ばれた。

避難所になっているお寺への支援物資輸送。本道脇までトラックが入れないので、人力で運ぶ。

つい2週間前まで、いつでも、どこでも、売っていたバナナが、心を潤す貴重な物資になっている。

急峻な地形が特徴のリアス式海岸では、直接の被害を免れた斜面の住宅地も、
実は津波にのまれた地区の目と鼻の先（車で2分）。多くの被災者が避難している。

消防団として毎日忙しい地元民の方ももちろん被災者。自宅を流された人も。